

私たちのまちの安全保障

好評・タンバリン通信
スペシャル編です！

今回は「安心・安全なまちづくりとは」というテーマで、
特に高齢化社会における課題という観点から質問しました。



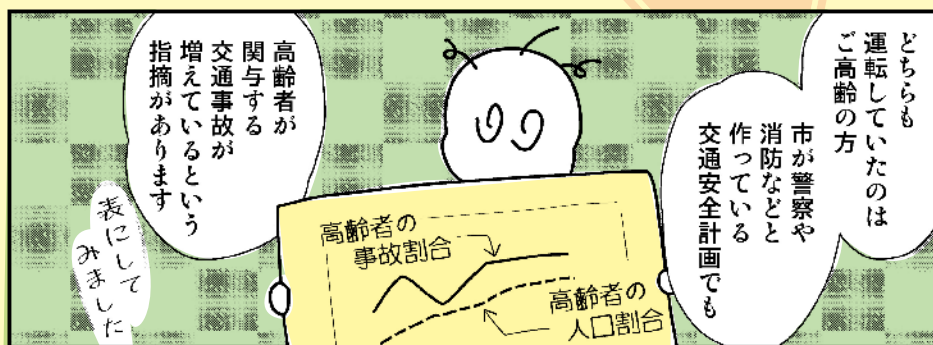
第一の着眼点は「交通安全対策」です。

←←←←

高齢者がハンドルを離すには

高齢ドライバー対策としては、**運転免許の自主返納制度**があります。免許証は身分証としての機能も果たすため、自主返納の際にはその代わりとなる**運転経歴証明書**が発行されますが、市民アンケートの結果をみると「返納の意志のない」高齢者もやはり一定数は存在します。

歩行や荷物持ちがづらくなった高齢者にとって、自家用車は確かに手離しがたい重要な移動アイテムでしょう。また、趣味やプライドなど精神面の理由で自主返納できないケースもあります。返納を強制するわけにはいかないのが行政や警察の悩みどころです。

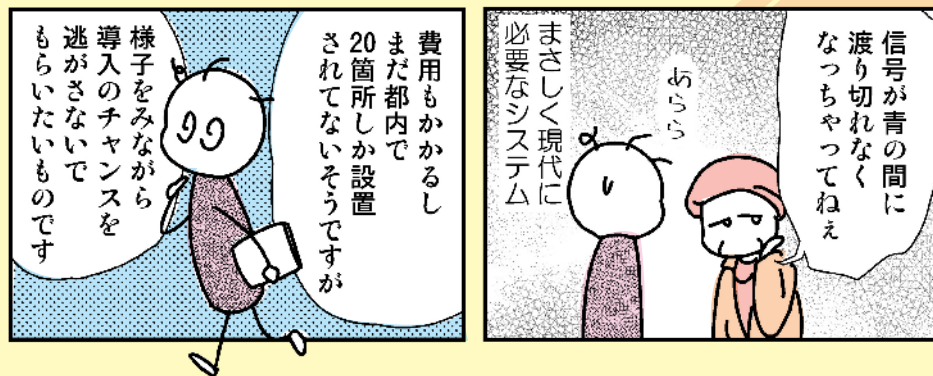
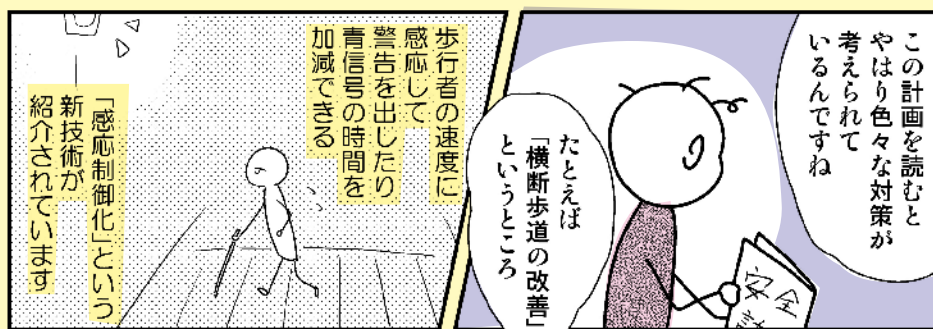


事故を起こさない・起こさせないために

しかし現実問題として、高齢化にともない体力・気力や反射神経はどうしても衰えていくもの。また認知症などの心配もあります。交通事故は、被害者側のみならず加害者の側にも大きな傷と痛みを与えますから、無事故をめざす取り組みは断じて諦めるわけにはいきません。

警視庁では高齢ドライバーに対し、**TOKYOドライブレトレーニング**というキャンペーンで年1回の運転練習を勧めています。免許更新時の高齢者研修とは違って義務ではありませんが、市でも機会をとらえて制度の周知に努めているということです。

こうした取り組みについて調べる一方で、私はもうひとつ「**コミュニティの醸成**」に着目しました。



《多摩市交通安全計画》

国や都の計画をもとに、市の交通安全対策会議(市長はじめ行政の理事者と警察・消防の関係者などで構成される)が5年ごとに策定。現在は第10次(2016~2020年度)計画のちょうど中間期にあたります。

